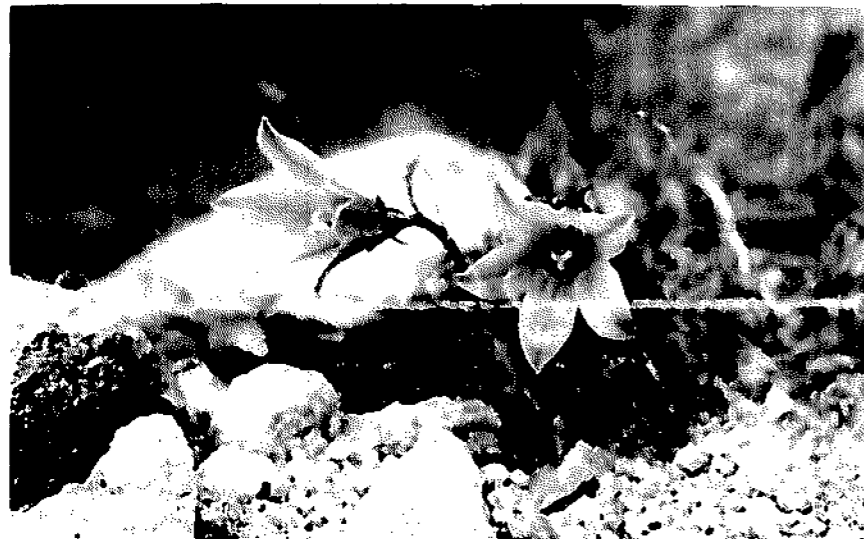


知床連山縦走

三ツ峠から望む知床破火山



7月の下旬、1泊2日の日程で、憧れの知床連山縦走を行ないました。1日目の昼前からガスがかかり広大な風景は見えませんが高山植物は今が花盛りで、エゾノツガザクラ、イソツツジ、アオノツガザクラ、特にチングルマは白い絨毯の様に一面に咲き霧の中に華やかな色が滲み幻想的でした。雨のなか二つ池でキャンプし、2日目もガ



スがかかり期待した風景が見えませんが、硫黄山のガレ場やそびえる岩々が霧にかすみ、この世とは思えぬ風景でした。

次回は、晴れた日に縦走をしたいので次の計画を練っています。

(緑化第一係 玉川)



クリーンキャンペーン実施

平成10年度、日観協観光地美化キャンペーンが、7月29日(水)知床五湖・オシンコシンの滝で実施されました。このイベントは斜里町役場に事務局を置く9構成団体が、町長の呼び掛けにより毎年実施しているものです。

今年も観光シーズン最中の8月、センター職員も参加し知床を訪れた多くの観光客に、ゴミの持ち帰りを呼び掛けました。

午後からの知床峠は霧がかかり天候が悪く観光客も少ないために予定を変更し、知床峠から斜里町よりのオシンコシンの滝駐車場で実施しました。

今後のイベント計画

- 10月13日(火)『森林浴と自然観察』
知床観察教育林 23名
 - 10月18日(日)『みどりの自然観察会』
斜里町周辺国有林 20名
 - 11月8日(日)『講演』
知床森林センター 35名
 - 1月9日(土)『親子で木工体験』
知床森林センター 35名
 - 2月27日(土)『歩くスキーと自然観察』
斜里町周辺国有林 30名
 - 3月12日(金)『歩くスキーと動物観察』
知床遠音別岳山麓 23名
- 問い合わせ、知床森林センター TEL 01522-3-3009

知床の森から

平成10年8月 第56号



ハイマツ (マツ科)
主に高山帯によく生育し、大きな群落をつくる。知床の風樹たりの雪の多い所では、雪解けまで生育している

北見管轄支局 〒098-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
E-mail siretoko@cocoa.ocn.ne.jp

知床は今

夏本番となった現在、知床半島には全国から観光客が訪れている。年間160万人を超える観光客、いったいどこから来るのだろうか。

その来訪の仕方も、観光ツアーで来る者、自家用車、オートバイ等様々である。

ここ知床には、年々観光客が増えて来ているが、私たち知床半島で業務に従事している者として、国民の方々が自然等に対する関心が高まって来ていることに嬉しさを感じる。

だが反面、最近では困ったことが起きるようになってきている。

知床半島には、深い森林に守られるように色々な動物がいる。この中



で、北海道を代表する動物エゾヒグマである。

このエゾヒグマが観光客で賑わう知床五湖や国道等の周辺に出没するように成ってきている。このため、観光客の目に触れることも多い。

エゾヒグマは、珍しさや可愛さがあるせいか、ごく一部の観光客が車中から餌を与えてしまうことがある。結果、エゾヒグマも人を見ると餌を貰えると学習し、人間に近づくことが増えてくる。エゾヒグマは、大変危険な動物で有る。

自然に接する場合は、野外にゴミを捨てたり、餌を与えないなどのマナーを忘れては成りません。



第21回

森

とのふれあい

『森の手助け・除伐と木炭焼き』を、7月3日(金)実施しました。

今回は森林を造る過程で、除伐作業と木炭焼きを体験していただくことです。参加者は、午前9時にセンターを出発し一路除伐作業地にむかいました。作業地は、知床半島の付け根でオホーツク海岸線から林道を内陸部に約4km入った地点で、林道沿いにある植栽後14年経ったアカエゾマツの人工林です。作業開始前に、怪我やスズメバチの飛来に備え、ヘルメットや防蜂網・防蜂手袋をつけさらに作業用腰鋸をつけ装備完了です。

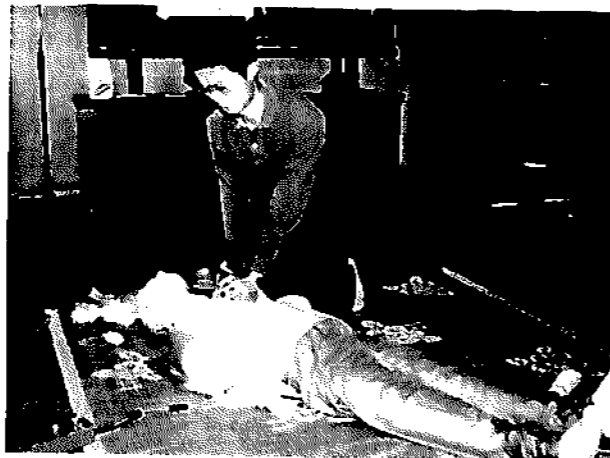
作業内容の説明、注意事項などを行いその後四班にわかれそれぞれ作業地に向かいました。除伐



普通救命講習会の実施

昨年実施し好評がよかった救命講習会を今年度は、安全週間中に実施。講師を地元斜里町消防署に依頼し、最近における事故などの状況と救急処置の在り方、簡単な止血法の話聞いた後、実技に入り人工呼吸と心肺蘇生法の練習を開始。講習後1年経っているため、とまどっている者も多い。

消防署員の方の丁寧な説明や指導を受けながら、各人が真剣に練習をした後、1人4分のテストを実施。一口に4分と言っても、実際に一連の蘇生法を行ってみると大変である。殆どの者が汗をかく(ひやあせ?)ほどである。改めて1人で行う蘇生法の大変さを痛感したようである。呼吸が停止した場合、心肺蘇生法を早く



森の手助け除伐と木炭焼き体験

する木の太さと樹種はさまざまですが、初めのうちぎこちなかった鋸もすぐに馴れてスムーズに切ることができ、また、中には切った木が倒れず苦勞していましたが、みんなで掛け声をあげ協力して倒していました。

作業時間は一時間半ほどの短い時間でしたが、みなさんはそれぞれの感慨を述べ、この除伐体験から何かを感じ取った様です。

午後から場所をセンターに移し設置した木炭焼き体験です。

木炭焼き体験は、木炭が出来るまでの一連の体験をしていただくため、原木切り、窯入れ、粘土塗り、着火などの作業を行います。

出来上がった木炭は、燃料としての利用はもちろんのこと、水や空気を浄化する浄化材や消臭剤・土壌改良材として利用、また、木炭を作る過程で出来る木酢液の利用などとし

て使え、その幅広い用途に感心していました。帰りには、参加者全員に出来上がった炭を持ち帰っていただき、今日一日の新しい体験を楽しく終えることが出来たようです。

すればするほど蘇生する割合が高くなるという。蘇生する確立は4分後で50%、5分では25%となっており、いかに一刻も早く適切な応急手当が必要かである。職場でも日常生活でも、日頃のイメージトレーニングが不可欠であるように思う。

知床・羅臼湖湖沼巡り

第43回森林レクリエーション・in知床『植物観察・羅臼湖湖沼巡り』を8月1日(土)に実施しました。今回のイベントは、知床峠から羅臼町よりの羅臼湖です。年々、知床に関する関心が多いことも反映してか参加申込が多く、100名を超える応募があり抽選を行うことになりました。

今回は遠く紋別市からの参加者を含め総勢47名です。その内男性は14名、最年少は6歳です。バスに乗った一行は午前10時頃羅臼湖登山口につき、ただちに登山を開始、コースに入ると標高約700m程度でハイマツやウラジロナナカマドなど高山性の木が現れウグイスの美声が聞こえ一行を歓迎してくれました。一の沼から順に五の沼まで続き終点が羅臼湖です。コース沿いにゴゼンタチバナの白い花、ミヤマアキノキリンソウの黄色い花が咲いており、二の沼からは羅臼岳(標高1,661m)



自然公園クリーン作戦に参加

8月2日(日)、自然公園における全国一斉の美化清掃運動が、環境庁・斜里町・羅臼町の呼びかけにより実施されました。

開会式は両町の団体などから約100名の参加者が集まり知床峠で開かれました。

峠では峠駐車場の観光客にゴミ袋を手渡しゴミの持ち帰りを呼び掛け、また町ごとに国道・道道の観光道路のゴミを回収し、美化活動に汗を流しました。

両町に跨がる知床国立公園は、観光に登

山にと毎年沢山の人が訪れる所です。

ここを訪れる人たちに、この美しい自然を満喫して頂くための一つの行事は今年も終了しました。

